







令和5年 **5**月の**優しさ**通信

目次

- (1)  学校設備 点検の目粗く
- (2)  小学校の危険な通学路 安全対策 80%完了 緊急点検の 76,000 箇所
- (3)  認知症ケア、VR活用進む 疑似体験で周囲の理解促す
- (4)  小規模保育 5歳児まで 対象拡大、転園の負担減
- (5)  転落対策「子ども目線で」 あらゆる物を踏み台に
- (6)  留守番児童の安全守れ 性的被害・泥棒と鉢合わせ 相次ぐ

♥ 今月の福祉用具 - 福祉住宅改修の基礎知識 段差の解消 (段差を小さくする)

(1) 学校設備 点検の目粗く

*学校保健安全法施行規定は学校設備の安全性について、毎学期 1 回以上の点検を義務付けています。

*文部科学省は確認すべき項目を例示する一方、具体的な点検方法は学校現場に委ねています。

*安全点検表の提供に応じた効率小中学校 365 校のうち、点検表に具体的な項目が記載されていない学校は 131 校 (36%) (消費者安全調査委員会が 3 月に公表した報告書)。

*報告書は、安全点検の担い手への支援が不十分とも指摘。

死亡事故、10年で9件 転落や下敷き

●消費者庁の事故情報データベース

*学校設備が原因で小中学生が死亡した事故は、2012~2021 年度の 10 年間で 9 件。

*このうち 5 件は、窓際の柵に乗るなどして外に転落した事故。

*死亡例を除いた事故も 2017~2021 年度の 5 年間で 103 件発生。

(2023 年 4 月 6 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 小学校の危険な通学路 安全対策 80%完了

緊急点検の 76,000 箇所

*小学校の通学路の緊急点検で判明した危険な 76,404 箇所のうち、2022 年 12 月末時点で 61,637 箇所の安全対策が完了しました。

*子どもへの安全教育や、警察による取り締まり強化などは、それぞれ90%以上が完了。

*歩道の整備や防護柵の設置などを含む対策は67.2%に。

(2023年4月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 認知症ケア、VR活用進む

疑似体験で周囲の理解促す

*認知症の人への理解を深めるため、仮想現実(VR)の技術を使った症状の疑似体験を促す取り組みが広がっています。

*車から地面までのわずかな高低差でも、認知機能が十分でない高い所から飛び降りるように見えてしまうケースがあります。

☆認知症の症状は大きく2つ

●中核症状

*もの忘れなど。

●行動・心理症状

*中核症状で本人が混乱したり落ち込んだりした結果として起こる。

*VR体験の取り組みの背景には、介助者と認知症の間にある認識のズレの問題。

*VR体験の目的は、認知症の症状の裏側にある感情を体験してほしいというもの。

*VR体験の狙いは、認知症の人と接する身近な人たちの意識の変革。

*認知症の人の症状や感情に対する周りの理解が進まなければ、助けを求めたくとも萎縮し本音で話せないかもしれません。

*その原因に自分自身になっていないかどうか、警鐘を鳴らす内容になっています。

*認知症のVR体験の対象は、研修や授業など幅広い場面で広がっています。

*徘徊や暴力を振るう理由に、ひょっとしたら周りの人側に原因があるのではと考えてみてほしい、という思い。

2025年には700万人に増加

*日本では認知症の人は2020年に約600万人、2025年には65歳以上の約5人に1人に相当する約700万人に増えます(厚生労働省研究班の推計)。

*さらに2040年には約800万人、2060年には約850万人に。

*医療や介護など福祉関連の人材が、2040年に96万人不足すると推計(2022年版厚労白書)。

(2023年4月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

 (4) **小規模保育 5歳児まで 対象拡大、転園の負担減**

*こども家庭庁は、小規模保育施設で預かる子どもの対象年齢を拡大。

*現在は原則2歳児までで、5歳児までに改めます。

*小規模保育は0~2歳児が対象で、定員6~19人の施設を指します。

*2022年4月時点で小規模保育の受け皿は約10万人。

*2019年時点で500施設程度。

*新たに3~5歳児を預かるかは、小規模保育施設の事業者の判断に委ねます。(2023年4月20日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

 (5) **転落対策「子ども目線で」 あらゆる物を踏み台に
専門家が警鐘**

*専門家は「家の中ではどんな物でも事故の原因になり得る」と警鐘を鳴らします。

*2015年7月~2020年6月に起きた14歳以下の転落事故30件のうち2割近くが家具や段ボールを踏み台に。

*乳幼児は一つのものに集中せず、次から次へと探索行動に出てしまうのが特徴。

*2歳児は興味があるものに向かう衝動性が強い一方、危機察知能力は未熟。

*子どもの目線に立った環境づくりも重要。

(2023年4月25日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

 (6) **留守番児童の安全守れ**



性的被害・泥棒と鉢合わせ 相次ぐ

帰り道、背後を警戒 一人でも「ただいま」

*子どもが被害に遭った強制わいせつ事件の発生場所は、路上(41%)に次いで住宅が23%。

*児童一人で留守番をしたことがあるのは約63%(総合警備保障2019~2020年実施の小学校教諭対象調査)。

*このうち、「留守番中に不審な訪問者が来たことがある」児童は約8%。

☆自衛策

- 留守番中はインターホンや電話に出ない
- 玄関の鍵を開けたらすぐに家に入って戸締りする
- 家族が不在でも「ただいま」と声をかけ、他にも在宅者がいるようにアピール

*子ども自身が警戒していることを周囲に示すことも重要。

(2023年4月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



今月の福祉用具－福祉住宅改修の基礎知識

段差の解消（段差を小さくする）

☆玄関の段差を解消（小さくする）

*住宅の1階の床は建築基準法で、地盤面直下より45cm以上高くするように決められています。

①段差を小さくする

*玄関ポーチと玄関内部のたたき部分との段差は、2cm以下となるように工事を行う。

*上がり框の段差は、昇降しやすいよう18cm以下にする。

*18cmを超える場合は、式台を設置。

*式台の奥行きは40cm以上、幅は50cm以上を確保。

②スロープによる段差解消

*スロープを設置しようとする場合、本人の意向や理学療法士・作業療法士と相談。

*住宅床が地面から45cm高い場合、通常1/12の勾配のスロープで水平距離5.4m必要。

*屋外用スロープに適しているといわれる1/15の緩勾配スロープでは、少なくとも6.75mに水平距離が必要。

*スロープ上下端には1.5m程度の水平面を設けなければならない。

③段差解消機による段差解消

*車いすが載るテーブル部分を油圧のジャッキで昇降させて段差を解消する介護保険制度による福祉用具の貸与の対象の福祉用具。

*屋外に設置する場合、防湿型を採用し、雨がかりを避けて軒下・庇などでカバー。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキスト・介護用品カタログより)